

Web Usability & Accessibility

15 文部科学省サイト



アクセシビリティ分析担当

濱田英雄

(株)ユーディット 主任研究員
hamada@udit-jp.com



ユーザビリティ分析担当

石田直子

(株)ユーディット 研究員
naoko@udit-jp.com

(株)ユーディット

URL <http://www.udit-jp.com>

「情報のユニバーサルデザイン」を目指し、アクセシブルなWebの制作やコンサルティング、高齢者や障害者も利用できるユニバーサルデザインの情報環境、製品の調査などを行っている。

ナビシステムやページ構成などに難があり、情報を生かしきれず

「ゆとり」と「特色ある教育」を目標に掲げた新学習指導要領に沿った教育が、今年4月から各学校で展開されている。政府内からも成否を問う声が挙がるなか、文部科学省が推進する教育現場の構造改革は実現できるのか。また、文部科学省とも深くかかわるサッカーW杯の大会情報や科学技術振興策などについて、同サイトでの情報提供は円滑に行われているのか。Webの「ユーザビリティ&アクセシビリティ」について、濱田・石田両氏が教育指導する。

パンくずリストを効果的に活用するには

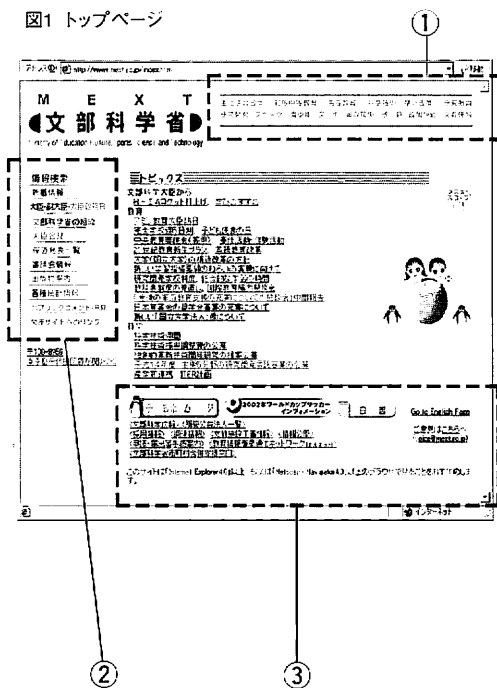
今回はユーザビリティで有効といわれているパンくずリストについて考えてみます。

パンくずリストはサイト内のナビゲーションを支援する方法の一つです。ユーザーがトップページからたどってきた経路をリンクで表示することで、現在のページのサイト内での位置を明示し、上位階層への移動を容易にするものです。

文部科学省でもこの方法を使っています。しかし、実はこのリンクを使って戻るよりも、「戻る」ボタンを使ったほうがわかりやすかったりします。パンくずリストを有効なナビゲーションとして機能させるには、サイトが内容的に階層構造化されていること、リストの言葉だけで内容がわかるようになっていないこと、ユーザーの把握したサイトの構造とリストの示す内容が一致していること、が前提です。使い慣れた「戻る」ボタンよりもほしい情報に早く近づけるといことが、見た目ではわからなければ使われなんでしょう。また、パンくずリストは階層が深く、内容が細分化されている場合に効果を発揮します。ただ残念なことに、文部科学省では末端のページではこのリストがない場合が多いようです。

パンくずリストは「ユーザビリティチェ

図1 トップページ



ユーザビリティ総合評価 ★★★★★

一コメント きれいなデザインや斬新なアイデアが随所に見られますが、残念ながらこれらが仇になってしまっているところが見受けられました。デザインの統一を徹底させると操作性がよくなるでしょう

アクセシビリティ総合評価 ★★★★★

一コメント 4つのフレーム使用の問題と、ページの構成に難があり、総合評価が下がりました。

ックリスト]などでよく取り上げられる方法ですが、使用法を誤るとユーザビリティの効果を発揮しません。意味を理解してサイト内で有効に使われるように取り入れましょう。

利用者環境に配慮したWeb画像の処理について

Webには多くの画像が使われていますが、時として表示に時間のかかる重い画像に出くわすことがあります。原因としては、画像サイズが必要以上に大きいか、解像度の上げすぎが考えられます。これらの基本形式としては、写真類はJPEG、イラスト・線画はGIFにすべきでしょう。ただし、場合によっては保存形式や、処理方法を変えた方が軽くなる場合もあるので、重さと画質・サイズのバランスを考慮しながら見比べて、できるだけ最小限のデータ量になるように心がけましょう。

アクセシビリティへの配慮とは、単に障害者・高齢者に対するだけでなく、さまざまな人に配慮するということです。ダイヤルアップなど低速回線で接続している利用者には負担を掛けない意味でも、Web画像は極力軽く作るべきです。

どうしても、解像度の高い画像や大きい画像を載せる必要がある場合は、小さくて軽い画像から、別ページの解像度の高い画像にリンクを張るような工夫が必要です。その際、〇〇KB等の表示をしておく親切でしょう。1ページに数多くの画像を置く場合も同様に、よく考えて作成すべきでしょう。また、画像を表示しない設定のブラウザや、トラブルで画像が表示されない場合に、デザインが崩れて情報が伝わりにくくならないためにも、タグにはwidth、height属性をつけて画像サイズを入れる必要があります。

ユーザビリティについて (解説/石田直子)

ユーザーにサイトの目的が伝わること ★★★

サイトの目次にあたる項目がトピックスに比べて目立たず、内容が伝わりません。またトピックスは変動的な情報で、サイトの内容や目的を図るのには適していません。情報公開の意図は伝わりますが、何をどのような形で公開するのか、文字にメリハリをつけるなど、項目をもっと強調したほうがよいでしょう。

全体像がトップページで把握できること ★★★

トピックスがページの大半を占めています。全体像の把握に必要な目次にあたる項目は上部(図1-①)と左コラム(図1-②)、下部(図1-③)にまとめられていますが、字が小さく色が薄いため少し見にくいです。この上、左、下の項目は、配置や文字の作り方から別のカテゴリでしょうが、どのような意味でグループ化されたのかよくわかりません。

デザインや構成が統一されていること ★★★★★

図2は上部の目次項目の一つ、「研究開発」の項目の一部を開いています。上部の目次はそれぞれ独立した内容を紹介していますが、基本のページ構成はこのように上部に主要目次ナビゲーション、左側にサブナビゲーションがある形になっています。サイト内でのデザインを徹底継承してこそ、マウスの操作範囲や視線の移動範囲が少なくなるというデザイン統一の有効性が発揮できます。このページではサブナビゲーション(図2-①)の下から2番目を開くと、残念ですがこのデザインが継承されていません。デザインを継承しない、あるいは別のサイトになる項目については、それとわかるように項目の形や色、言葉などを変えておきましょう。

必要な情報が適切な場所にあること ★★★★★

ページによっては、「戻る」ボタンやパンくずリンクが配置されていません。上部と左にナビゲーションメニューが表示されるページでは行き場に困りません(パンくずリストの例:図2-②)が、ひと通りページを見た後は、前後のページ、上位階層のページに行くなどのリンクがほしくなります。ページの最後に「このページのトップへ」や「上へ」で戻って上部のナビゲーションを使うこともできますが、下部にもこのような簡単なナビゲーション項目があると便利です。短いページではどくなるので、状況に応じて文字リンクなどで対応するといでしょう。

次の動作がわかりやすいこと ★★

「メニュースコープ」というボタンがあり、これを押すと別ウィンドウが開き、サイトの項目一覧が表示されます(図3)。どうやらサイトマップのようですが、この言葉は耳慣れないので解説が必要でしょう。また、このページは文字が見にくいです。サイトのデザインの工夫は大歓迎ではありますが、見やすさや使いやすさを疎外しないような配慮が必要です。またこのような子ウィンドウを開いた場合は「閉じる」ボタンを配置しましょう。

予想されたフィードバックが返ってくること ★★★

複数のページからリンクされている場合、「戻る」リンクを押すと意図していたページと違うところに戻ってしまうことがあります。たとえば、図4-Aの新着情報からパブリックコメントに関する情報を開きます(図4-B)。これはパブリックコメントの項目で、ここで表示されている「戻る」リンクを押すと、新着情報からたどってきた人は元のところへ戻りません。「戻る」リンクは必要な項目ですが、そのページにいたるルートが複数想定される場合は表現を工夫しましょう。

図2

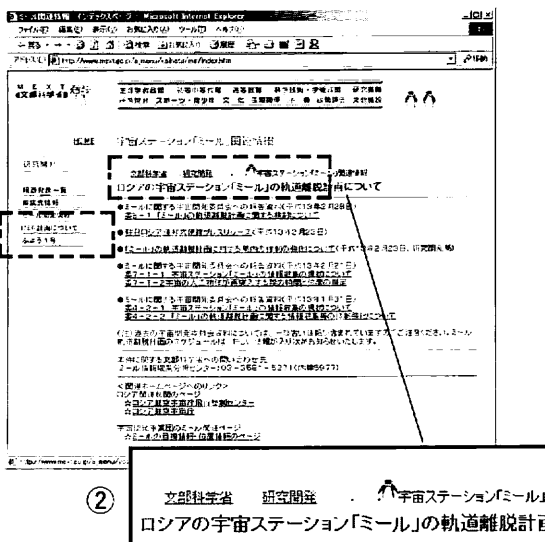


図3 トップページ下部左より

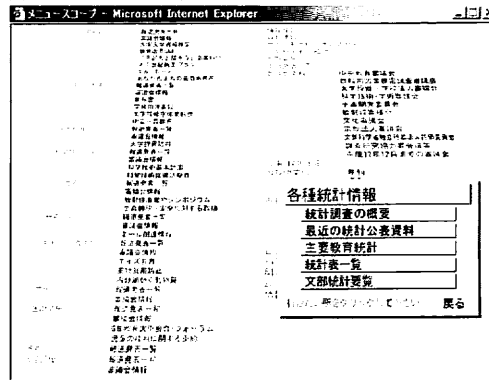


図4-A

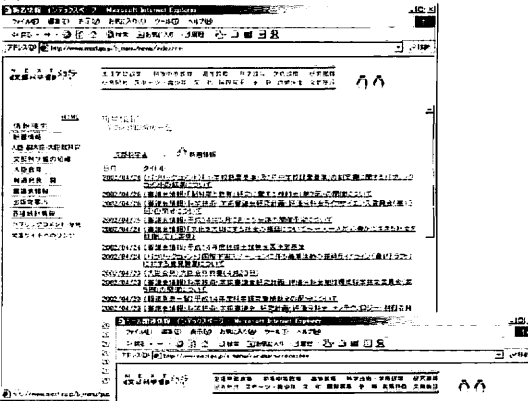
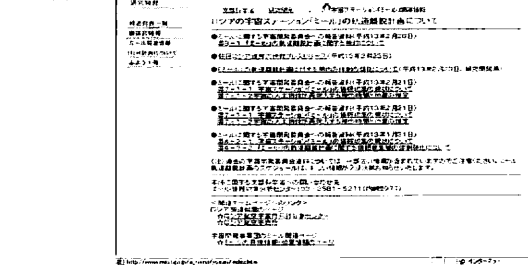
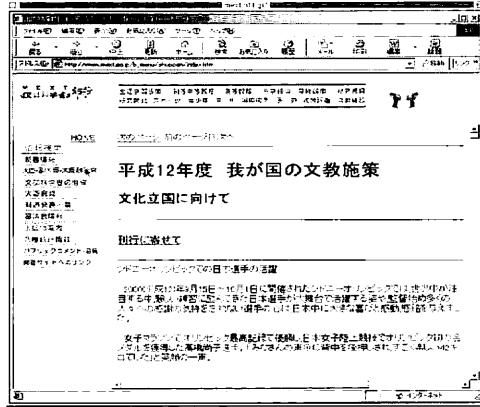


図4-B



アクセシビリティについて (解説/濱田英雄)

図5



画像にはALT属性をつけること ★★

一部に英語のALTやALT属性がついていないところもあります。

外国語の乱用はしないこと ★★★★★

難しい英語はあまり使われていないと思います。

<title>タグは的確につけること ★★★★★

フレームが使われてわかりにくいのですが、一応<title>はついているようです。

背景と文字色はコントラストがあること ★★★★★

一部で背景色と文字色が同系色で見にくいところがありますが、概ねよいと思います。

フレームの使用は必要最小限にすること ★

フレームが多用されています。考慮が必要です。また、フレーム元ファイルのNOFRAMES要素には、音声やテキストブラウザに配慮して、フレームそれぞれのページに飛べるようにテキストリンクを入れましょう。

新しい技術には代替手段を用意すること ★★★★★

一部にFlashが使われていますが、別ページが用意され、音声ブラウザでも読めるようになっています。

その他

[トップページ]

●Flashによるメニューの問題(図3)

右上の「メニュースコープ」ですが、Flashで作られて音声ブラウザでは情報が得られません。クリックすれば拡大表示されますが、その項目の文字が小さく、配色もよくないのでかなり見にくい状況です。

[教育白書 平成12年度 我が国の文教施策]

このページにはいくつも問題点があります。

●本文の長さの問題(図5)

ページ後半の約4分の3が目次で、50画面分近くの長さがあります。細目は下位ページに入れるなどもっと短くすべきでしょう。

●作り方の問題(図6)

たとえば、大項目の「第1部 文化立国に向けて」をクリックすると、このタイトルしか入っていません。さらに次のクリックすると、画像が一つ入っているだけです。次の第1節にやっと本文が出てきますが、ここがまた異常に長く、写真や図が多用されているので表示が遅いうえ、ALT属性も入っていません。全体の構成を考えて、目次の振り分けと1ページの長さを適切にすべきでしょう。これらのことは、音声で聞く場合やマウス操作が難しい人だけでなく、一般の人達にとっても見やすくするための配慮になります。

●表組の画像処理の問題(図7)

「日本のノーベル賞受賞者」のリストがありますが、画像処理でALT属性もないので、音声では情報が伝わりません。HTMLで表組しても時間がかかるとは思えないので、手抜きと疑われてしまいます。サイトの最初の部分ではALT属性にも気を配っているのですから、下位ページでも同様にしてほしいものです。

[大臣・副大臣・大臣政務官のページ]

●音声ブラウザでの読み上げの問題(図8)

下にある大臣などの紹介ですが、音声ブラウザでは、左上から右下へ横に読み上げるので、この場合には役職名だけを横に読み、つぎに写真のALT属性を横に、最後に名前を読み上げることになり、役職、詳細ページリンクと名前との関係がわかりにくい。役職名・写真・名前は同じ枠に入れましょう。

●ALT属性の文字表現の問題

一番下に「写真もしくは名前をクリックすると詳細をご覧ください」と書いてありますが、写真のALT属性には「副大臣のページへ」といったリンク先が入っているの、どこに写真があるのか音声ではわかりません。また、このようなお知らせは最初を書くほうがよいでしょう。

図6

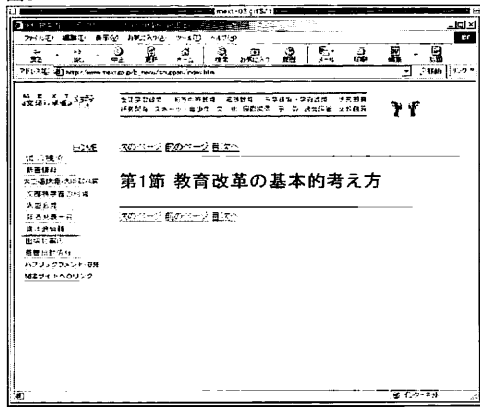


図7

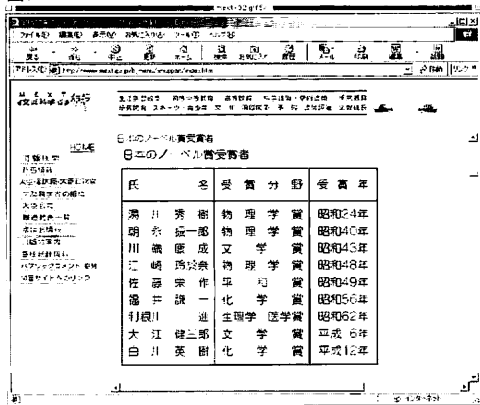


図8 http://www.mext.go.jp/b_menu/soshiki/index.htm

